KISC

財団法人　かごしま産業支援センター
Kagoshima Industry Support Center

7月号

July 2010

今月の表紙

鹿児島の大地に根ざした さつまいもを活かして

株式会社 ジーピーフーズ
代表取締役社長
知識　公洋　氏

<企業概要>
所 在 地：薩摩川内市青山町４６０２番地
創　　業：昭和６２年７月
資 本 金：５，０００万円
従業員数：６０名
ＴＥＬ：０９９６－２５－３０７９
ＦＡＸ：０９９６－２５－３０９０
E-mail：info@satumaimo.com
ＵＲＬ：http://www.satumaimo.com/gpf/index.html

今月の表紙は、平成21年6月29日に、「汁液分離システムを取り入れた、さつまいもの総合食材と販路開拓」で国の**地域産業資源活用事業計画に認定**された「株式会社ジーピーフーズ」代表取締役社長知識公洋さんです。

株式会社ジーピーフーズは、創業以来、鹿児島県の特産物である「さつまいも」に主眼を置き、ジーピーフーズならではのさつま芋商品（加工品）の開発に力を入れてきました。さつまいもを中心にした加工食品で、**人の中に、笑顔の中に、暮らしの中に、地域の中に脈々と息づく企業**を目指しています。

今回の計画は、主にでんぷん・焼酎用として利用されてきたさつまいもを、総合食材として活用するため、凍結搾汁法による汁液分離システムを用いて、さつまいもの甘さを液部へ分離させることによる試作・開発や販売促進に取り組むものです。

<株式会社ジーピーフーズ>

さつまいもをあらゆる加工食品に活用できる高付加価値製品（食材）の開発は、これまで着手されていないことや、低ＧＩ（血糖値の上昇が遅い）、ノンアレルギー食品であるさつまいもの総合食材化が、健康志向及びアレルギー対策として大きな可能性のある点が評価されました。

おいしさへのこだわりや健康・安心への気づかいなど、こだわり素材の食品メーカーとして**地域に密着した「健康推進企業」**として、お客様の「満足」を追求しつつ、お客様との「共感」を育みながら存在感のあるサツマイモ加工品メーカーとして、魅力的な品揃えの充実に取り組むべく活動しています。

㈱ジーピーフーズの
さつまいも加工食品

CONTENTS

02 今月の表紙
03 この人に聞く
04 特集　経営者のための専門家派遣活用術
06 九州ニュービジネス優秀賞受賞
07 女性経営者登場
08 実践！ＩＴ活用
10 ベンチャープラザコーナー㊽
11 農商工連携を推進します
12 研究シーズの紹介
14 受発注情報
15 Information

この人に聞く！

地域産業資源の活用による新たな事業活動の展開を

株式会社日本政策金融公庫鹿児島支店
支店長兼中小企業事業統轄　福岡　俊広

１　日本政策金融公庫の取組み

私共の株式会社日本政策金融公庫（略称：日本公庫）は、平成２０年１０月１日、国民生活金融公庫、農林漁業金融公庫、中小企業金融公庫及び国際協力銀行（国際金融等業務）が統合し発足した会社です。法律に基づき運営される政府系金融機関で、株式は１００％政府が常時保有します。

国内向け業務は、小口の事業資金を主に取り扱う「国民生活事業」、農林水産事業者向けの資金を主に取り扱う「農林水産事業」、中小企業者への長期資金を主に取り扱う「中小企業事業」の３事業が担っております。発足当初から世界的な金融危機という状況の中で、政策金融機関としての役割が重要性を増し、その期待にお応えすべく「信頼と安心を、明日の力へ。」をキャッチフレーズに全力で頑張っております。

鹿児島においては、鹿児島、鹿屋、川内の３支店があります。鹿児島支店は、国民生活事業・農林水産事業・中小企業事業の３事業が同一ビルでの業務を行っており、お客様の利便性に訴えるワンストップサービスを提供しております。県内の中小・小規模企業や農林水産業者の方への「セーフティネット貸付」等の融資のほか、幅広いサービスの提供にも努めております。

２　地域産業資源の更なる活用に向けて

３事業は、それぞれが有するノウハウ、情報等を相互に活用し、お客様の販路・仕入先の拡大などを支援するビジネスマッチングや農商工連携の推進、情報提供など、統合によるシナジー効果を発揮して地域活性化の支援も行っています。

鹿児島は、農林水産資源にも恵まれ、数多くの特産品を有していることから、中小企業者と農林水産業者との連携によるビジネスチャンス創出のお手伝いにも力を入れています。

例えば、農商工等連携計画の認定を受けた「奄美大島の地域資源（パッションフルーツとたんかん）を活用した食前酒の製造と販路開拓」を実施する黒糖焼酎メーカーに対し、融資及び販路開拓支援などで、事業化のサポートをしています。

鹿児島の豊富な地域産業資源（農林水産物、鉱工業品、観光資源の１７５品目）は、異業種の中小企業者との連携、中小企業者と農林水産業者との連携を組むことで、その活用範囲は、まだまだ広がるはずです。地域産業資源を活用し、新たな事業の展開を図られることを期待しています。

日本公庫としては、今後とも、中小企業の支援拠点である（財）かごしま産業支援センターと連携を密にし、県内の中小・小規模企業や農林水産業者の皆さまの成長と発展に貢献したいと考えています。

経営者のための専門家派遣活用術

～専門家を派遣します。あなたの会社の経営革新をサポート～

○当センターでは、創業者や経営革新を図る中小企業者が抱える経営、技術、ＩＴ、マーケティングなどのさまざまな問題を解決するために、「専門家派遣事業」を実施しています。

○この事業では、当センターに登録している民間の専門家を10回程度派遣して、専門的見地から診断・助言を行いますので、継続して問題解決に取り組むことが可能となります。

○今回は、「工場の生産性の向上」を目標に改善活動に取り組んだ事例を紹介します。

○経営者の皆さん！
「専門家派遣事業」を活用することで、経営革新を実現しましょう！

事例紹介
「工場の生産性の向上」
株式会社クリエート技研

代表取締役　大滝　太志夫　氏

〈企業概要〉
- 所在地　鹿児島県薩摩川内市水引町５４３０
- 創業　昭和55年10月
- 資本金　５００万円
- 従業員数　23名
- 業種　生産用機械器具製造業

○「専門家派遣事業」を利用したきっかけは

当社は、主に電子部品・半導体・自動車関係の精密治工具・金型部品・精密部品などの生産を行っています。現在の場所には３年前に移転してきましたが、当時は社員の役割分担が明確でなかったため、社長である自分に仕事が集中し、組織全体として無理が生じていました。

また、一昨年のリーマンショック以降、受注量がピーク時の３割程度まで激減したため、今後、安定的な利益を創出するには内部の生産改善を行うことが不可欠であると考えるようになりました。

そのような中、かごしま産業支援センターの情報誌「ＫＩＳＣ」で専門家派遣の事例紹介を読む機会があり、興味があったので相談したところ、同事業の活用を勧められました。

○指導を受ける際にどのような目標を設定しましたか

当時は受注量が急激に回復するような状況ではなかったので、売上よりも採算性を重視した結果、「工場の生産性の向上」を目標として設定しました。

具体的には、一人時間当り加工高の増加（3千円→3千円）、不良率の低減（8％→5％）を掲げるとともに、これを機会に社員の意識改革まで図りたいと考えていました。

○具体的にどのような指導を受けましたか

今回は、㈱トヨタ車体研究所に所属されている専門家からＴＰＳ（トヨタ生産方式）に基づく指導を受けました。

まず、現状分析として生産工程の診断を実施し、モノと情報の流れ図作成から当社が抱える問題の洗い出しを行いました。

その結果、多くのムダ・ムラ・ムリが顕在化したため、具体的な改善活動に取り組むことになりました。

（指導内容）
①各工程を廻っての工程診断
②モノと情報の流れ図作成及び当社の抱える課題のまとめ
③ＴＰＳの基本的な考え方及び標準作業による改善の進め方
④生産性指標（一人時間当り加工高）の捉え方と不良率の実態把握
⑤２Ｓ（整理・整頓）の徹底による探す・迷う・選ぶ時間のムダ排除活動
⑥受注管理台帳・工程進捗管理ソフト・不良集計ソフトの提案及び実施による問題の見える化
⑦生産性向上に向けた機械の寄せ止めと要員配置の見直し（１人２台持ち→２人３台・４台持ち）

⑧自社でＱＣ活動を永続するための教育と不良低減活動
⑨生産改善に取り組む優良企業の視察

○指導を受けた後、具体的にどのような効果がありましたか

モノづくりの基本である２Ｓが全社的に展開できたことで、活動前と比較すると生産現場の風景は見違えるほど良くなり、工具・材料を探す時間が一人平均16分／日短縮することができました。

また、当初の目標に対する成果は次の通りです。

（指導を受けた成果）

①一人時間当り加工高の増加
1.3千円 → 3.1千円

②不良率の低減
8％ → 3.8％
※平成22年1月時点

○目標の達成度とその評価は

このように、当初設定した目標を達成することはできましたが、永続的に達成できるレベルには、まだ至っておりません。

また、今回実施した改善活動も完全に定着したわけではないので、今後の継続的な取り組みが重要だと考えています。

そこで、今年度はトヨタ車体研究所と民・民契約を結び、引き続き指導を受けることを予定しています。

（22年度目標）

①一人時間当り加工高の増加
3.1千円 → 3.6千円

②不良率の低減
客先不良率　目標０％
社内不良率　3.8％未満

③売上高の増加
月売上高　25％Ｕｐ

＜専門家による指導風景＞

○指導を受けた感想は

今回、専門家派遣事業を活用しトヨタ車体研究所の指導を受けたことで、徹底した２Ｓ活動、ムダ排除の必要性、全員参加（＝何事も自分達で苦労しながら、進めなければ定着しない）ということを学ぶとともに、社員一人一人の意識改革が図られたと思います。

その結果、社員全員が「会社とはどうあるべきか」ということを真剣に考えるようになり、意見や改善提案が寄せられるなど社内の活性化にもつながっています。

今後は、会社の状況を見た目ではなく数値化して捉え、社員全員で情報共有を行い、目標に向かい一丸となって取り組んでいくことで、本当の実力を身に付けたいと思っています。

＜整理整頓された工具類＞

☆今回アドバイスをいただいた専門家☆
小濵　実　さん
（株式会社トヨタ車体研究所）

専門家派遣事業の御案内

【対象要件】
・創業者又は経営革新等を行い、経営の向上を目指す意欲のある中小企業者
・経営革新等経営の向上に係る目的あるいは目標が明確であること
・専門家派遣により、支援の効果が期待できる状況であると判断されること

【費用の負担等】
・専門家派遣に必要な経費（謝金・旅費）の２/３の額を当センターで負担いたします。
・派遣回数は、原則として１企業あたり１０回程度です。

【派遣企業の決定】
・上記要件に照らして審査の上、派遣企業を決定します。

■問合せ先■
財団法人かごしま産業支援センター　新産業育成課　経営支援室
ＴＥＬ：099-219-1273　ＦＡＸ：099-219-1279　E-mail：keiei@po.kric.or.jp

九州ニュービジネス優秀賞受賞！

株式会社日本計器　鹿児島製作所

南九州市知覧町　５１５９－１

代表取締役　青柳衆一

平成22年6月11日、平成22年度九州ニュービジネス大賞受賞企業の発表があり、南九州市知覧町の**株式会社日本計器鹿児島製作所が九州ニュービジネス優秀賞**を受賞されました。

「九州ニュービジネス大賞」
各賞受賞者のみなさん
左から３人目が㈱日本計器鹿児島製作所加藤部長

優秀賞を受ける加藤部長

九州ニュービジネス優秀賞は、社団法人九州ニュービジネス協議会が、九州地域におけるニュービジネスの創出・育成を図ることを目的に、革新的な起業家精神を持って新しい事業に挑戦しているニュービジネス企業または経営者を選定し、表彰している「九州ニュービジネス大賞」の一つです。

今回受賞の「**全自動散水・止水制御装置**」は、農家の「より安心・安全なお茶栽培を！」という思いに少しでも役に立てないかという視点から研究を進め、農家が一年間丹精込めて育ててきた農作物を霜から守るための制御装置として開発されました。主に鹿児島県薩摩半島を中心に「お茶の自動散水・止水制御装置」として、利用されています。

温度センサーで茶葉付近の温度を感知し、任意の設定温度で水道のコックを自動開閉することができます。動力は環境に優しい乾電池を使用し、連続散水、間欠散水、タイマー散水など多くの機能を有しています。

【全自動散水・止水制御装置】

温度センサーもすばやく反応するＩＣセンサーを使用し、単一乾電池４本で約６か月連続使用でき、商用電源の配線が不要なため広範囲に設置が可能で、山間部など様々な形状の圃場に設置できます。

また、株式会社日本計器鹿児島製作所は、この「**全自動散水・止水制御装置**」で、**２００９年元気なものづくり中小企業３００社の「日本のイノベーションを支えるモノづくり中小企業」**にも選定されました。

【お茶畑での導入事例】

女性経営者登場！

地域資源に愛着を持てる商品を

ドリーきかく有限会社
代表取締役　木村　由美子

鹿児島市東谷山５－１８－８
ＴＥＬ：099-267-2932
ＦＡＸ：099-814-3015
ＵＲＬ：http://dly.jp/
E-mail：info@dly.jp

自然界や昔の人の知恵から

地域にある資源を活かし、昔の人の知恵を織り込んだ商品を企画、販売しています。起業のきっかけは私の子供をはじめ、周りにアレルギーの子供が多く、皮膚トラブルや喘息を数多く見てきましたので、体を丈夫にする物、皮膚を丈夫にする物を自然界や昔の人の知恵から探したいという想いでした。その中で出会ったのが、沖縄の数万年前に珊瑚礁に閉じ込められたという海水と鹿児島の地域資源の「黒豚のオイル」です。

まず、沖縄に伝わる野草茶を製造している薬草研究所と珊瑚浸透海水取水井戸の所有者の双方にお願いして、抗酸化たっぷりの発酵野草茶と珊瑚浸透海水のコラボ商品「**さにんばな茶**」を作っていただきました。

自分の子供に使用した処、半年たった頃から徐々に体全体に変化が起こり始め、皮膚も徐々に回復し、極端に病院通いが減り、生き方も前向きに変化が出てきました。

野草発酵茶「さにんばな茶」

珊瑚礁浸透海水の多種類のミネラルと、本土に比べ強い紫外線と戦う沖縄の植物の持つ強い抗酸化力が子供の自己免疫力を手助けしてくれたのでしょう。この商品は沖縄において、徐々にファンとなってくださったリピーターの方が増え、今では全国からご注文をいただくようになりました。

地域資源を活用し

現在は、この珊瑚浸透海水（正式名　陸地珊瑚礁浸透古代海水）の持つミネラルをどう有効に活かせるのか、大学とのクルマエビの種苗生産の研究をはじめとして、様々な研究に取り組んでいるところです。その中での研究結果から、人間の皮膚のバリア機能にミネラルが深い関係ある事を利用した石鹸（この珊瑚海水のミネラルと鹿児島黒豚のオイルを使った石鹸）を企画しました。

海水ミネラルが肌に必要なミネラルを補充し、それにより外刺激から肌を守る事もでき、結果、肌を元気にするという流れに、豚オイルの成分（人間の肌がもともと持っている成分と同じ）をプラスし、そしてそれ以上に皮膚に潤いの幕を張って皮膚の水分を逃さず外刺激からも守るというおまけ機能もつける事ができたのです。こうして両材料の利点が結集した、沖縄と鹿児島両県の資源を使った石鹸「**珊瑚のおもてなし**」が完成しました。

洗顔石鹸「珊瑚のおもてなし」

またこの度、この豚のオイルも薬用油脂として特許が認められましたので、**地域資源を使った商品の可能性**が一段と広がり楽しみです。

これからも孫やひ孫たちの世代が、自分の住む場所の地域資源に愛着を持ってくれるような商品作りを次世代に向け発信していきたいと思っております。

実践！IT活用

IT化って？

◆IT化って？

IT化ってナンでしょう？

IT化とは「情報をいかに効率よく活用し、それらを制御するか」という技術的な話、な訳です。

「我が社もIT化を進めるぞ！」なんて朝礼で言ったはいいが「さてIT化ってどうすんだ？」となり「よくわからん」、「ず～っとそのまま」と言うケースが多いのも事実です。

おおよそ簡単に思いつくのは…、

- **事務処理にコンピュータを入れて効率化を！**
- **社員全員にコンピュータを持たせる**
- **ペーパーレスにすればいい**
- **IT専任者を雇う**

確かにコンピュータを導入すると情報技術化されたようで、かっこいいですよね。

もちろん対外的にもコンピュータで出力された伝票を受け取れば、受け取った側も安心感はあります。

しかし、これらを全て実施するとなると、莫大な費用がかかります。そうなると、この情報技術（IT）は、なかなかのツワモノです。

◆もっともお手軽なIT化

コンピュータ化することや自動化すること。確かにこれらはIT化ですよね。でも、「もっと手軽にIT化を実現することはできないのか？」と考えるわけです。

極論ですが、IT化は情報技術化を意味しますから、**情報の活用方法を上手に制御できればいい**わけです。

営業マンが汗水流して集めてきた顧客情報などを記録し、社内で共有できれば、これだけで立派なIT化と言えるのではないかと。古いやり方からIT化に発展させることもできると考えます。

例えば、十年ほど前、ちょうどIT化が始まった頃でしょうか。ある小さな会社との打ち合わせで見えてきたものは、社員が自由に書き込める手書きの「**伝えたいことノート**」、営業マンだけではなく、事務員さんも上司も、全員がなんでも自由に書き込んでありました。それもびっしり。

当時は社員数が少なかったので、見開き2ページを使って横軸に社員名が書いてあり、区切り線を引いて分けてあるだけのものですが、それぞれの課のグループごとに1冊ずつが置いてありました。

使い方は非常に簡単。伝えたい相手の欄に、その内容を書き、内容の最後に自分の名前を書くだけ。帰社した社員は、そのノートを見て自分に伝達情報があるかどうかを読み、次の行動を起こすだけ。つまりは伝言板です。「吉田さんが探してました：大平」や「入荷状況を聞いておいてください：杉山」とか、「山田商店さんが改装を考えてますよ：宮本」とか。この会社では日報などは存在せず、この「伝えたいことノート」で情報の共有を行ってました。

IT化って、この考えでいいんだと思います。**社員が気兼ねせず気軽に実行できることが持続力を生み出して財産となっていく**のだと。

多くの経営者の方々がIT化と言うと「スケジュール管理だ！」「ガントチャートだ！」と鼻息荒くなりますが、よく考えずにそのまま実施すれば無駄になってしまうケースも多い。

これらは、実は経営者にしかメリットがありません。つまりは、単に「監視」することにしかならないため、社員はストレスを感じ、結局は使われない結果に終わります。

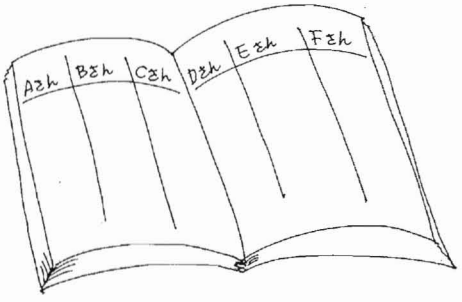
IT化を進めるために「折角コンピュータを導入したのだから」と、無理して使っているためにこのような症状がでてきているのでは？

◆社内のインフラを整理すること

必要なことは、**得られた情報を社内でどのように共有し、活用できる形態に整理できるか**ということなんです。

営業マンがその日一日、集めてきた情報は、その鮮度が高いうちにデータ化しておく必要があります。日が経てば鮮度が落ち、また、場合によっては使えない情報となるわけで、他社に越されてからではその情報の価値は無いに等しくなってしまう。悲しい現実です。

先ほどの「伝えたいことノート」は、十数年前には非常にいい効果がありましたが、いくつか問題点もあります。



＜こんなイメージでした＞

・会社に営業マンが戻らなければ新しい情報がつかめない
・メッセージ(ノート)を簡単に持ち出せないので、コピーを取るかメモをする必要がある
・いつの情報かわかりにくい
・社員が増えた場合、全体に情報が伝わらなくなってくる

などなど、土台(ハード)はよかったのですが活用方法(ソフト)でうまく機能しなくなってきます。

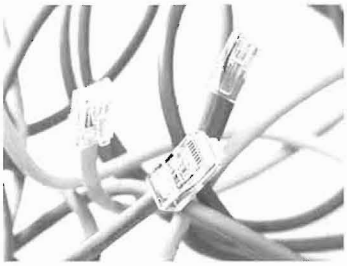
そう、**「伝えたいことノート」では機能的に足りなくなってくる**わけです。

◆コンピュータ同士をつなぐだけでもIT化になる

「コンピュータが2台あればプリンタも2台必要か?」「その日によって使うコンピュータが違う場合、同じデータを複数のコンピュータにそれぞれ保存しなければいけないのか?」どちらもコンピュータ同士をつなげれば大丈夫ですね。

コンピュータの台数が2台以上になれば、情報(データ)がばらばらに存在したり、台数分周辺機器が必要と思われますが、それぞれをつなぐことにより解決し始めます。これはいわゆるネットワークの構築です。

ネットワークの構築はある程度の費用はかかりますが、それを超える価値と便利さを持っています。現在のコンピュータはネットワークに接続しなければ、コンピュータとしての価値が半減するほど非常に重要な要素と言えます。



LANケーブルを使って…

コンピュータ同士がつながる

◆情報の一元管理のための設備

コンピュータがつながったら、情報の一元管理が容易にできるようになります。

一昔前までは「サーバ」と呼ばれる非常に高価な機材が必要でしたが、今では価格の安い機材も出回ってきました。いわゆるNAS(Network Attached Strage)と呼ばれるもので、ネットワークに接続された記憶装置と訳せます。

このNASを利用して情報を一元管理すれば、散在していたドキュメントなども上手に管理できるようになります。

また、社員が使用しているコンピュータにトラブルが発生しても保管された情報を失ったり取り出せないということが無く、別のコンピュータから欲しい情報にアクセスできるのは実に便利です。

ここまでくればコンピュータを利用した本格的なIT化と言えます。もちろん更に高度なIT化にも進めますし、エコな視点でIT化も可能です。

IPストレイジ・サーバ

◆ITはかっこいい

IT化を進めていけば自然と「かっこいい」スタイルができあがってきます。

社員が必要としている顧客の情報を出先から携帯端末などでサッと引き出し、他社に負けないスピードで決定させる。これって、かっこいいですよね。そう、例えて言えば「映画」のようなことは現実に可能なわけで、もう既に始まっていることなのです。そして、更にIT化をどんどん進めて様々な情報を処理して仕事をバンバンこなすことができます。(少々大げさですが)

☆筆者紹介☆

早川　誠 (Makoto　Hayakawa)

インターネットとイントラネット社内システムの開発、
社内IT教育、ネットワーク構築、BTO-PCの製造販売
ハードからソフトの開発、教育まで一貫してサポートいたします。

DesignStudio　MYS　代表
〒892-0815 鹿児島市易居町1-2
鹿児島市役所みなと大通り別館6階ソーホーかごしま8号室
TEL:099-228-7600
URL:http://www.webmys.com/
Mail : hayakawa@webmys.com

ベンチャープラザコーナー㊽

第44回ベンチャープラザ 鹿児島（二水会）

発表する沖園部長

「芋焼酎もろみ中の機能性成分を活かした天然食品素材の製造と販売」

西酒造株式会社
代表取締役　西　陽一郎

日置市吹上町与倉４９７０－１７
TEL:099-296-4627 FAX:099-296-4260
E-mail:kittyo@po.minc.ne.jp
http://www.nishi-shuzo.co.jp

発表内容

〈企業紹介〉

酒類製造業として昭和33年設立しました。

現在、芋焼酎「薩摩宝山」、「富乃宝山」を主力に、全国販売しています。焼酎製造は、地域農業の延長と捉え、原料には鹿児島県内産の米、さつまいもを使用しています。

〈商品開発のきっかけ〉

焼酎を製造すると、大量の焼酎粕が発生します。今まで付加価値の高い有効利用法がありませんでした。

従来は海洋投棄され、肥料、飼料化までは利用されてきていましたが、産業廃棄物の範疇でした。焼酎粕には、捨てるにはもったいない有用な成分が多く含まれています。これらの成分を何とか食品素材化したいと思い、その製造法、利用法を、鹿児島大学、鹿児島ＴＬＯと共同で考案しました。

平成17年にＮＥＤＯの大学発事業創出実用化研究開発事業、平成20年に九州経済産業局の地域資源活用新事業、平成21年に農林水産省の新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業として採択され、商品開発を実施して参りました。

〈商品の特徴〉

商品は、芋焼酎もろみからアルコール分を除いた全成分を食品素材化したもので、液状の「**もろみエキス**」と固形状の「**もろみファイバー**」です。芋焼酎もろみを蒸留前に固液分離し、液部と固形部を別々に蒸留することで得られます。

「もろみエキス」は、芋焼酎もろみに含まれるクエン酸、アミノ酸、ポリフェノール等の有用成分を活かし、液状天然食品素材として、健康飲料、調味液のベース等に利用できます。

「もろみファイバー」は主成分のさつまいも食物繊維を活かし、固体天然食品素材として利用します。多くの食品加工製品に添加可能であり、既存市販の食物繊維の代用になります。天然さつまいも食物繊維入りを謳い文句として利用できます。

【もろみエキス】

【もろみファイバー】

発表後の成果・感想

発表の仕方について㈶かごしま産業支援センターより、指導いただき、また当日適切な御質問、御教示もいただき、勉強になりました。

今後このような機会に、大いに役立つものと思います。

まだ商品化に至っていないことや、今回、食品業界からの出席者が少なく、直接商談に結び付いていません。

しかし、聴講された皆さまには、開発の趣旨を御理解いただけたことと思いますので、商品化の際は応援いただけると期待しています。

今後の展望

今まで、研究開発事業として、国の助成を受け、展示会、講演会、雑誌寄稿等を通して、本事業のＰＲを行いました。

その中で本事業の目的は、殆どの皆さまから賛同いただいていますが、いざ商談になりますと、こちらの思惑どおりいかない幾つかのハードルがあり、産みの苦しみを感じています。今後も、一つ一つ解決しながら、商品化を進めていきます。

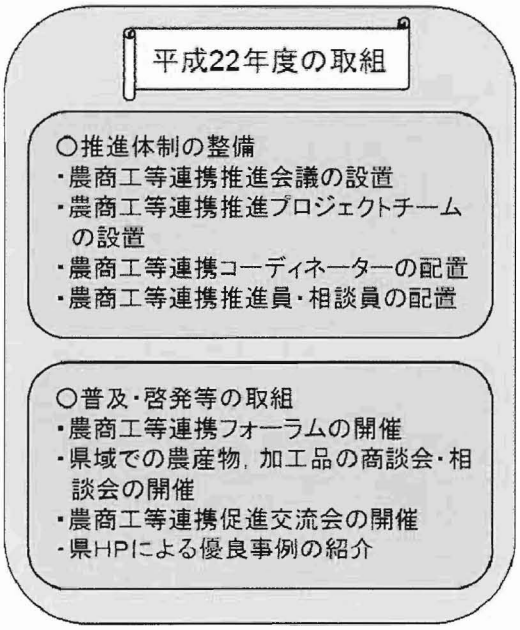
焼酎粕を食品素材化することは、環境問題、食糧問題、エネルギー問題や地域産業にいささかなりとも寄与することでありますので、その信念で事業を進展させて参ります。

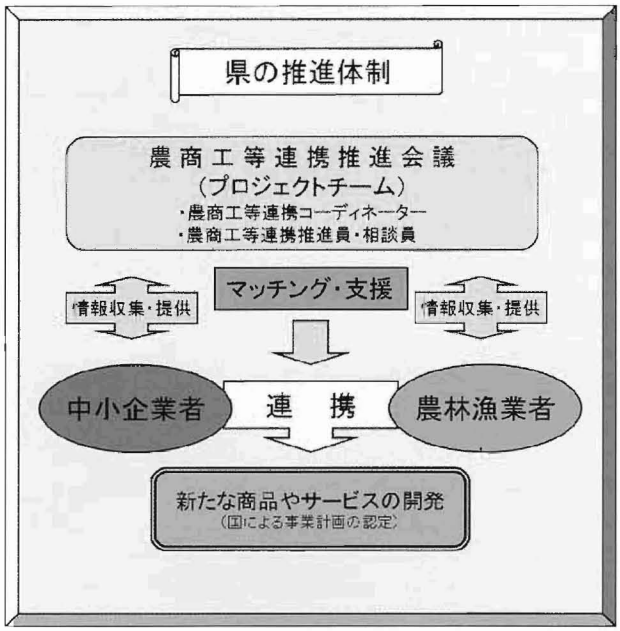
農商工等連携を推進します

鹿児島県では、中小企業者と農林漁業者が連携して、本県の良質で豊富な農林水産物を活用した新たな商品やサービスなどの開発を行う農商工等連携を推進します。

平成２２年度は、「農商工等連携推進会議」を新たに設置し、本県における推進体制を整備するとともに、「農商工等連携コーディネーター」や「農商工等連携推進員・相談員」を配置し、情報の収集・提供やマッチングを行い、中小企業者及び農林漁業者の活動を支援します。

また、農商工等連携の必要性や全国での取組状況、県内の連携事例等の紹介、相談会などを行うフォーラム等を実施し、農商工等連携の普及・啓発を図ります。





農商工等連携コーディネーター、農商工等連携推進員・相談員の配置

新たに配置された農商工等連携推進員・相談員が中小企業者や農林漁業者の皆様を訪問し、お話しを伺いながら農商工等連携の取組のお手伝いをします。

また、集められた情報をもとに、コーディネーターが具体的な連携に向けた支援等を行います。

上村 公平
農商工等連携ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
（JA県中央会内）

吉松 忠俊
農商工等連携推進員
（県工業倶楽部内）

片平 博之
農商工等連携相談員
（県農産物加工推進懇話会内）

お問い合わせ
鹿児島県商工労働水産部産業立地課産業支援係
TEL:099-286-2964　FAX:099-286-5578　E-mail:sangyo@pref.kagoshima.lg.jp
鹿児島県農政部農産園芸課流通加工企画係
TEL:099-286-3177　FAX:099-286-5595　E-mail:ryutuu@pref.kagoshima.lg.jp

研究シーズの紹介

この発明を製品化してみませんか？

鹿児島ＴＬＯでは鹿児島大学・鹿児島高専・鹿屋体育大学の研究者の研究成果を企業の新規事業等へ活用していただくために、産学官連携や技術移転活動を行っています。 今回は、鹿児島大学が出願し、鹿児島ＴＬＯが移転活動を行っている下記発明を御紹介します。

【発明の名称】 破砕装置　　**【出願人】** 国立大学法人鹿児島大学

【発明者】 鹿児島大学工学部教員

【出願番号】 特願２００６－２８６７６６　　**【出願日】** 平成１８年１０月２０日

【発明の概要】 竹・せん定枝・モミガラなど、硬くてそのままでは使えそうにないものを繊維状物質に変える装置。今回、整流板を装置内に設けることにより目詰まりなく繊維粉末にして出す破砕装置である。

【図による説明】

目詰まりしないで、植物の繊維をスムーズに破砕する装置

【解決したい課題】

従来は、樹木を伐採したあとに残る、枝・葉や落ち葉など焼却処分されていた。
最近は、細かく破砕して処分。（理由＝環境問題、近隣の苦情など）
★植物性繊維を破砕する際に、装置に目詰まりを起こすことがあり作業効率も悪かった。
（市販の破砕装置は、特許の関係で価格が高く、また使用権も制限されている。）

植物性繊維がスムーズに流れるようになりました

○有機物を含む肥料として再利用すれば資源のリサイクルに！
○樹木を伐採した後に出る…枝や葉の処分が楽に！

企業・団体、自治体・学校、農業、園芸、造園、清掃関係の方におすすめです。

株式会社鹿児島ＴＬＯ　【 http://www.ktlo.co.jp/ 】
〒890-0065　鹿児島市郡元１－２１－４０　鹿児島大学内
TEL　099-284-1631　　FAX　099-284-1632　　E-Mail　info@ktlo.co.jp

受発注情報

当センターでは、仕事を発注・受注したい企業の希望条件（設備・技術力等）に見合った取引の紹介あっせんを行っております。今月は、下記の企業から発注・受注の申し込みがきておりますので、あっせんの御希望がありましたら御連絡ください。
また、センターのホームページでも御覧いただけます。（http://www.kric.or.jp）

◆発注情報

No.	所在地	発注品目	数量	加工内容	発注条件		
					必要設備	材料	有効年月日
1	京都府	機械切削加工部品	協議	自動盤等での切削加工	自動盤　他	鉄･SUS アルミ	H22.8.31
2	神奈川県	装置部品 （8～9月頃）	協議	機械加工	フライス盤・旋盤 マシニングセンター他	鉄･SUS アルミ等	H22.8.31
3	山口県	食品加工機械用部品 （随時）	協議	製缶・機械加工 樹脂加工	製缶・機械加工設備一式	協議	H22.8.31
4	愛知県	布製　袋 （将来的）	2,000～ 20,000 枚/月	縫製 （500×500）	同左加工設備一式	綿 ポリエステル	H22.8.31

◆受注情報

No.	所在地	資本金（万円）	従業員数（人）	受注希望品目（加工内容）	主要機械設備
1	阿久根市	500	13	電子部品組立検査	研磨機・半田設備・リード研磨機

【お問い合わせ先】　（財）かごしま産業支援センター　ビジネス支援課
TEL:099－219－1274　FAX:099－219－1279
E-MAIL:business@po.kric.or.jp

Information

1　「下請取引改善（調達担当者向け）講習会」開催の御案内

当センターでは、下請取引の適正化を推進することを目的として「下請取引改善（調達担当者向け）講習会」を毎年、開催しております。
この講習会は、「下請代金法」や「下請中小企業振興法」に定められている取引のルールについて、事例を交え、やさしく解説しながら関係法令等への理解を深めて頂くものです。
今年度も、下記のとおり講習会の開催を予定しております。
詳細が決まり次第、ホームページ等で御案内いたしますので、皆様の御参加をお願いいたします。

開催概要

◆日　　時　　平成２２年９月９日（木）１３：３０～１７：００（予定）
◆開催場所　　鹿児島サンロイヤルホテル
◆内　　容　　①下請適正取引に関する情報の紹介（下請かけこみ寺事業）
②下請代金支払遅延等防止法、下請中小企業振興法の概要
③簡易試験（簡易試験まで受けられた方には、**「修了書」**を発行いたします。）
◆対 象 者　　受発注企業の資材・購買・外注業務担当者等
（下請取引のある製造業・卸売業・小売業・サービス業・運輸業等）
◆参 加 費　　無　料　（ただし、テキスト代　２，０００円／人が必要です。）
◆定　　員　：５０名程度

２　平成２２年度開催（予定）の商談会　～新規取引先の開拓に御活用ください～

当センターでは、発注企業と本県中小企業による個別商談会を県外で開催するとともに、県単独の商談会を鹿児島市内で開催し、新規取引先の開拓を支援しています。今年度、開催予定の商談会は、下記のとおりです。面談会の詳細及び参加申込みにつきましては、ホームページ等に掲載いたしますので、御覧の上、積極的な御参加をお願いいたします。

【お問い合わせ先】　(財)かごしま産業支援センター　ビジネス支援課
TEL:099－219－1274　FAX:099－219－1279

◆九州６県合同広域商談会

【日　　時】　平成２２年１０月１４日（木）13:00～17:00（予定）
【場　　所】　マリンメッセ福岡　３階サブアリーナ
　　福岡市博多区沖浜町７－１
【参加企業】　発注企業　４０社　・　受注企業　６県で約１２０社程度
【対象業種】　機械金属・電気・電子・ソフト関連企業など
【主　　催】　福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・鹿児島県の支援機関

◆九州７県合同広域商談会（緊急広域商談会）

【日　　時】　平成２２年１１月２４日（水）13:30～19:00（予定）
【場　　所】　ホテルグランヴィア大阪
　　大阪市北区梅田３丁目１－１
【参加企業】　発注企業　４０社　・　受注企業　７県で約１００社程度
【対象業種】　機械金属・電気・電子・ソフト関連企業など
【主　　催】　福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島県の支援機関

◆鹿児島県取引情報交換面談会（緊急広域商談会）

【日　　時】　平成２３年２月２日（水）13:30～19:00（予定）
【場　　所】　ホテルウェルビューかごしま
　　鹿児島市与次郎２丁目４番２５号
【参加企業】　発注企業　３０社　・　受注企業５０社程度
【対象業種】　一般機械・金属・電気・電子関連企業など
【主　　催】　(財)かごしま産業支援センター
　　ビジネスマッチング協議会
　　(財)全国中小企業取引振興協会

３　鹿児島市･熊本市･福岡市 三都市連携受注促進商談会(機械金属製造業･情報サービス業)

この商談会は、平成23年春の九州新幹線鹿児島ルートの全線開通を見据えた三都市（鹿児島･熊本･福岡)の連携事業です。

【日　　時】　平成２２年７月２２日（木）13:00～17:00
【場　　所】　（財）福岡県中小企業振興センター　大ホール・２０２会議室
　　福岡市博多区吉塚本町９－１５
【参加企業】　発注企業　機械金属製造業　２５社　・　情報サービス業　１０社程度
　　受注企業　機械金属製造業　８０社　・　情報サービス業　４０社程度
【対象業種】　福岡市・熊本市・鹿児島市に事業所を有する機械金属製造業・情報サービス業
【主　　催】　三市連携地場企業販路拡大推進事業実行委員会（鹿児島市・熊本市・福岡市）
　　福岡市新市場開拓推進委員会
【実施機関】　（財）福岡県中小企業振興センター
【協力機関】　(財)くまもとテクノ産業財団・(財)かごしま産業支援センター

Information

4　ビジネスプラン策定セミナー開催の御案内

上野原ビジネスプラザでは、これから創業を予定されている方、創業間もない方や事業革新を考えている方を対象に、ビジネスプラン策定セミナーを開催します。

■開催日時■　（第１回）平成２２年７月２４日（土）～２５日（日）
（第２回）平成２２年８月２１日（土）～２２日（日）
９：３０～１６：３０（４日とも）
＊２回とも同じ内容です。

■開催場所■　（財）かごしま産業支援センター　上野原ビジネスプラザ
（霧島市国分上野原テクノパーク４番３０号）

■講　　師■　(株)鹿児島地域経済研究所　くらしと経営の相談所所長
中小企業診断士　経営コンサルタント　切口　朝之　氏

■内　　容■　①創業の心得 ②融資制度 ③ビジネスプラン作成 ④プレゼンテーション

■受 講 費■　無　料

■定　　員■　各１２名

■申込締切■　（第１回）平成２２年７月２１日（水）
（第２回）平成２２年８月１８日（水）
＊定員になり次第締め切ります。

■申込・問合せ先■
(財)かごしま産業支援センター　上野原ビジネスプラザ
霧島市国分上野原テクノパーク４番３０号
E-mail:gyoumu@po.kric.or.jp
ＴＥＬ：０９９５-４５-３５１１　ＦＡＸ：０９９５-４８-５２７０
ＵＲＬ：http://www.kric.or.jp/s_plaza/top.html

5　平成２２年度知的財産制度説明会（初心者向け）の御案内

特許庁、九州経済産業局特許室の主催により、知的財産の世界に第一歩を踏み出そうとする、企業等の知財部門に新たに配属された方、大学・公設試験研究機関等で研究開発に携わる方、知的財産権について学びたい、また興味がある方など、初心者レベルの方を対象に開催いたします。

特許・実用新案・意匠・商標の制度概要を中心に、産業財産権に関連する支援策等も紹介いたします。

参加費は無料ですので、この機会にご参加ください。

■開催日時■　平成２２年９月７日（火）１３：３０～１７：００

■開催場所■　鹿児島県市町村自治会館　４０１号室
（鹿児島市鴨池新町７番４号）

■定　　員■　１００名

■参 加 費■　無　料

■申込・問合せ先■
（社）発明協会鹿児島県支部
〒890-8577　鹿児島市鴨池新町１０-１
ＴＥＬ：０９９-２８６－２９７３　ＦＡＸ：０９９-２８６－５５７８
E-mail：　jiii-46k@oregano.ocn.ne.jp

鹿児島県人材育成センター利用の御案内

当センター出先機関の鹿児島県人材育成センターでは、企業の在職技術者など人材育成の支援を主たる目的として、各種の講座・研修を実施しているほか、企業自らが企画する会議・研修・講演などの会場として、低廉な使用料で利用していただいております。皆様の参加及び御利用をお待ちしております。

自主講座：ＱＣ手法・ＩＳＯ関係・パソコン講座など２６講座を実施
施設利用：１５０人収容の大研修室のほか大小６室を低廉な使用料で提供
（詳しくは、下記までお問合せください）
所 在 地：霧島市国分中央3-44-36

■問合せ先■（財）かごしま産業支援センター　鹿児島県人材育成センター
〒899-4332　霧島市国分中央３-４４-３６
ＴＥＬ：0995-47-3090　　ＦＡＸ：0995-46-4413　　E-mail：jinzaic7@po.kric.or.jp

「かごしま企業情報」への掲載の御案内

当センターでは、県内中小企業の情報発信の充実と検索等の利便性を図ることを目的に、当センターのホームページ上に「かごしま企業情報」を構築し、掲載企業の募集をしています。

インターネットを使用しての登録・更新が可能で、登録企業側の操作もしやすくなっています。

一社でも多くの企業に掲載していただければビジネスチャンスの拡大に繋がることが期待されます。掲載料は無料ですので、お気軽に御登録ください。

■問合せ先■（財）かごしま産業支援センター　情報支援課
ＴＥＬ：099-219-1275　　ＦＡＸ：099-219-1279　　E-mail：info@po.kric.or.jp

センターホームページ「KISCネット21」の御案内

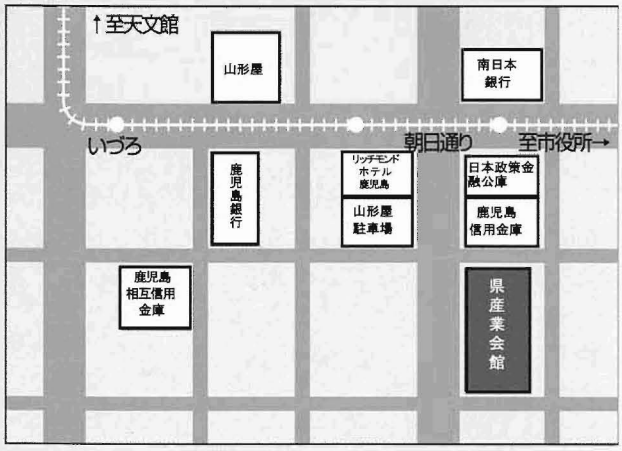
センターのホームページを御覧になったことがありますか？
こんなメニューがあります。
・センター・関連機関からのお知らせ
・ニーズ別に制度や業務相談窓口の紹介
・センターの調査物・刊行物の紹介
・ビジネスに役立つお勧めサイト　など
ぜひ、御覧ください！！　URL:http://www.kric.or.jp/

メール配信サービス「KISCNEWS」の御案内

当センターでは、イベントや研修など各種のお役立ち情報をＥメールで無料配信するサービスを行っております。配信を希望される方(機関または個人)は、次の当センターホームページからお申し込みください。

お申込み先ＵＲＬ：
http://www.kric.or.jp/publication/kiscnews/top.htm)

■問合せ先■
（財）かごしま産業支援センター　情報支援課
E-mail：kiscnews@po.kric.or.jp



情報KISC　７月号
発行者：財団法人かごしま産業支援センター
〒892-0821　鹿児島市名山町9-1　鹿児島県産業会館２Ｆ

TEL　099－219－1270（代表）
FAX　099－219－1279
E－mail　kisc@po.kric.or.jp
URL　http://www.kric.or.jp